

## 平成 29 年度大阪府立寝屋川支援学校第 1 回「学校協議会」報告書

日 時	平成 29 年 7 月 7 日（金） 9：30 ～ 11：30			
出席者	協議会委員	職名等	学校側出席者	校務分掌等
	加藤 美朗	関西福祉科学大学准教授	太田 正義	校長
	松島 明日香	滋賀大学教育学部講師	岡本 智	准校長
	辻 直幸（欠席）	寝屋川市立中央小学校長	吉村 昌己	事務部長
	奥野 勇人	(株) LIXIL ビバ SC 事業部 SC 運営管理部 マネジャー	石原 典忠	教頭
	岸本 泰幸 (欠席)	社会福祉法人・福祉型障害児入 所施設 月の輪学院 理事長	木村 稔	教頭
	那須 保子	寝屋川支援学校 P T A 会長	角尾 将司	首席
			宇賀 功二	首席
			門田 悠	首席
			植屋 正美	首席
		西田 宜弘	小学部主事	
		林 尚美	中学部主事	
		鶴岡 敬三	高等部主事	
		竹内 太平	進路指導主事	
おもな テーマ	①平成 29 年度学校経営計画について ②センター的機能の現状について ③進路指導の取り組みについて ④平成 30 年度教科用図書選定について			
協議内容 の概略	<p>(1) 平成 29 年度学校経営計画について、中期的目標の 3 本の柱及び本年度の取り組み等については太田校長より、高等部については岡本准校長より説明があった。</p> <p>(2) 本校のセンター的機能発揮の現状について、地域支援、支援教育地域支援整備事業、北河内支援学校相談サポートセンター等について、角尾首席より報告があった。</p> <p>(3) 進路指導の取り組みについて、平成 28 年度高等部卒業生進路先、実習先企業開拓、校内での取り組み等について、竹内進路指導主事より報告があった。</p> <p>(4) 協議会委員による協議</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・加藤会長は、「支援学校の児童生徒数は平成に変わるところ第 1 回目のピークがあり、平成 27 年あたりから第 2 のピークが近付いておりまだピークを迎えていないかも知れない。卒業生が増加することで進路にもかかわってくる。新たな事業所の傾向として、就労系が多く、生活介護系は少ない現状である。市の会議などでイメージを持ってもらうことも必要である。福祉型専攻科については、支援学校に設置してもらいたいという親の願いがある。福祉制度を利用した学びの場ができていけば良いのだが。」と述べられた。</li> <li>・松島委員は、「教育活動に細かく丁寧に取り組まれていると感じている。学校のホームページを日々更新されていることは大変だと思うが、取り組まれていることがすばらしい。児童生徒数の増加があり、教室や教員の体制など丁寧にかかわりきれない状況も考えられる。また、進路先の受け皿がなくなっていくという問題も考えられる。太田ステージについては、児童生徒各個人の特徴を捉える手立てになるので、そこからかかわりを考えていくことができる。」と述べられた。</li> <li>・奥野委員は、「太田ステージについては、認知発達の確認から指導課題へ結びつけやすく、子どもの発達にあった授業をするための有効なツールであるとの説明を聞き、たいへん重要なしゅみのひとつなのだという感を強くした。」と述べられた。</li> <li>・那須委員は、「寝屋川でも自立訓練、就労移行支援のニーズが高くなっている。児童生徒数の増加については、一昨日の府立支援学校 P T A 会長交流会でも、同じ課題が出ていた。要望を取りまとめて府へ要望していくところである。また、地域の学校の充実も大切であり、専門性の向上や人手不足についてはどこの学校にとっても同じ課題である。学校だけでは難しいので、P T A からも要望していきたい。」と述べられた。</li> </ul> <p>(5) 平成 30 年度教科書選定について、教科用図書選定理由書、使用教科書一覧表等について、石原教頭より報告があった。</p> <p>協議の後、校内見学を行い児童生徒の授業の様子を、協議会委員に見ていただいた。</p>			